

V 支援事業等

(1) 水田活用の直接支払交付金

- 水田で麦、大豆、飼料用米、米粉用米等の作物を生産する農業者に対して交付金を直接交付することにより、水田のフル活用を推進し、食料自給率・自給力を向上。

水田活用の直接支払交付金(1)

【平成30年度予算概算要求額:3,304(3,150)億円】

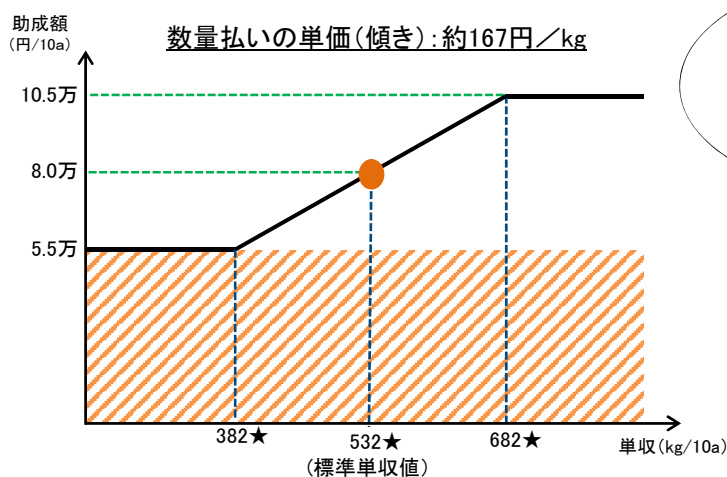
(1) 支援内容

① 戦略作物助成

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物	3.5万円／10a
WCS用稲	8.0万円／10a
加工用米	2.0万円／10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、 5.5万円～10.5万円／10a

※ 子実用とうもろこし(飼料用)を含む

<飼料用米、米粉用米の交付単価のイメージ>



収量上がるほど交付金額が増えるのかあ・・・
努力が報われる仕組みだね！



- 数量払いによる助成については、農産物検査機関による数量確認を受けていることを条件とします。
- ★は全国平均の平年単収（標準単収値）に基づく数値であり、各地域への適用に当たっては、市町村等が当該地域に応じて定めている単収（配分単収）を適用します。なお、各地域における標準単収値を当年産の作柄（作柄表示地帯別）に応じて調整します。

<標準単収値の作柄調整の考え方>

$$\text{標準単収値} = \text{配分単収} \times \frac{\text{当年産のふるい目1.70mm以上の10アール当たり収量}}{\text{ふるい目1.70mm以上の10アール当たり平年収量}}$$

(小数点以下切り上げ)

水田活用の直接支払交付金(2)

② 産地交付金

- 地域の作物振興の設計図となる「水田フル活用ビジョン」に基づき、高付加価値化や低コスト化を図りながら、地域の特色のある魅力的な産品の産地を創造するため、地域の裁量で活用可能な産地交付金により、二毛作や耕畜連携を含め、産地づくりに向けた取組を支援
- また、取組に応じた配分(下表参照)を都道府県に対して行う

対象作物	取組内容	配分単価
飼料用米、米粉用米	多収品種への取組	1.2万円/10a
加工用米	複数年契約(3年間)の取組 ※継続分のみ。	1.2万円/10a
そば、なたね	作付の取組 ※基幹作のみ。	2.0万円/10a

上記のほか、以下の取組に応じた配分を都道府県に対して行う

- ① 転換作物拡大 (1.0万円/10a)
前年度実績よりも転換作物が拡大し、主食用米の作付面積が減少した場合に、その面積に応じて配分
- ② コメの新市場開拓 (2.0万円/10a)
内外の新市場の開拓を図る米穀の作付面積に応じて配分
- ③ 畑地化 (10.5万円/10a)
水田の畑地化面積(交付対象水田からの除外面積)に応じて配分

水田活用の直接支払交付金の支払面積等(1)

- ・支払対象者数は45万7千件で、平成27年度の支払実績と比べて2万1千件減少。
- ・支払面積は、戦略作物全体では57万8千haと、平成27年度に比べて2万4千ha増加。
- ・作物別には、
 - (ア) 麦は、北海道、九州地方を中心に作付けがやや増加し、2千ha増の17万2千ha
 - (イ) 大豆は、北海道、東北、北陸地方及び熊本県で作付けが増加し、3千ha増の11万6千ha
 - (ウ) 飼料作物は、東北、九州地方を中心に作付けがやや増加、2千ha増の10万5千ha。
 - (エ) 新規需要米（WCS用稲、米粉用米、飼料用米）は、主食用米からの転換が全国的に進み、米粉用米を除いて作付けが増加、1万4千ha増の13万5千ha。
 - (オ) 加工用米は、4千ha増の5万ha。

(1) 水田活用の直接支払交付金の支払対象者数

	支払対象者数 (件)	個人	法人	集落営農
平成28年度	457,225	440,118	11,037	6,070
平成27年度	478,293	461,858	9,931	6,504
対前年度比較	▲ 21,068	▲ 21,740	+ 1,106	▲ 434

(2) 水田活用の直接支払交付金における戦略作物の支払面積

① 基幹作物＋二毛作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規 需要米				加工用米	合計	(参考)		
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね	備蓄米
平成28年度	172,305	115,734	104,943	135,371	41,106	3,501	90,764	49,981	578,334	35,551	792	39,333
平成27年度	170,590	113,016	103,234	121,533	37,860	4,206	79,467	46,157	554,529	34,125	585	43,771
対前年度比較	+ 1,715	+ 2,718	+ 1,709	+ 13,839	+ 3,246	▲ 705	+ 11,298	+ 3,824	+ 23,805	+ 1,426	+ 207	▲ 4,438

② 基幹作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規 需要米				加工用米	合計	(参考)	
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね
平成28年度	99,365	87,941	72,441	135,370	41,105	3,501	90,764	47,817	442,935	26,038	649
平成27年度	98,950	85,805	72,176	121,528	37,860	4,206	79,462	44,098	422,556	25,019	471
対前年度比較	+ 416	+ 2,136	+ 265	+ 13,843	+ 3,246	▲ 705	+ 11,302	+ 3,719	+ 20,379	+ 1,019	+ 178

③ 二毛作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規 需要米				加工用米	合計	(参考)	
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね
平成28年度	72,939	27,793	32,502	1	1	—	0	2,165	135,399	9,513	142
平成27年度	71,640	27,211	31,057	5	—	—	5	2,059	131,973	9,106	114
対前年度比較	+ 1,299	+ 582	+ 1,445	▲ 4	+ 1	—	▲ 5	+ 105	+ 3,427	+ 407	+ 29

水田活用の直接支払交付金の支払面積等(2)

- 平成26年度から導入した米粉用米及び飼料用米の数量払い分の対象面積、数量、平均単収については、
 - (ア) 米粉用米では、3千5百ha（7百ha減）、1万9千トン（4千トン減）542kg/10a。
 - (イ) 飼料用米では、8万9千ha（1万1千ha増）、49万6千トン（6万4千トン増）、558kg/10a。

(3) 米粉用米、飼料用米(数量払い分)の支払面積、支払数量、平均単収

	米粉用米			飼料用米		
	面積(ha)	数量(t)	単収(kg/10a)	面積(ha)	数量(t)	単収(kg/10a)
平成28年度	3,487	18,896	542	88,900	496,017	558
平成27年度	4,180	22,519	539	77,731	431,696	555
対前年度比較	▲ 693	▲ 3,623	+ 3	+ 11,168	+ 64,321	+ 3

注) 飼料用米等の数量払いは平成26年度から実施している。面積は、数量払いで交付した面積であるため、前記戦略作物の支払面積と異なっている。数量は、農産物検査機関による数量確認を受けた数量、単収は上記「数量」/「面積」により算定。
数量払いの実績には、農産物検査を受けていない取組及び飼料用米を生もみで出荷又は利用する取組の面積及び数量は含まない。

(4) 耕畜連携助成の支払面積

(単位: ha)

	飼料用米 のわら 利用	水田放牧	資源循環 の取組	合計
平成28年度	23,055	1,298	28,208	52,560
平成27年度	19,866	1,299	25,636	46,800
対前年度比較	+ 3,189	▲ 1	+ 2,572	+ 5,760

米の直接支払交付金の支払面積等

- 支払対象者数は77万8千件で、平成27年度に比べて4万2千件減少。
- 支払面積は94万4千ha（10a控除前：102万6千ha）で、平成27年度に比べて9千ha減少。

(5) 米の直接支払交付金の支払対象者数、支払面積

	支払対象者数 (件)				支払面積 (ha)	(参考)
		個人	法人	集落営農		支払面積 10a控除前 (ha)
平成28年度	778,026	765,175	8,651	4,200	943,757	1,026,079
平成27年度	820,373	808,023	7,806	4,544	953,064	1,039,251
対前年度比較	▲ 42,347	▲ 42,848	+ 845	▲ 344	▲ 9,307	▲ 13,172

(2) 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

- ・ 諸外国との生産条件の格差により不利がある国産農産物（麦、大豆等）について、引き続き生産コストと販売額の差に相当する額を直接交付。

畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

【平成30年度予算概算要求額： 1,984(1,950)億円】

(1) 支援内容（数量払）

① 麦類

品質区分 (等級/ランク)	1等				2等			
	A	B	C	D	A	B	C	D
小麦 (ハヅ・中華麺用品種:60kg当たり)	8,990円	8,490円	8,340円	8,280円	7,830円	7,330円	7,180円	7,120円
小麦 (上記品種以外:60kg当たり)	6,690円	6,190円	6,040円	5,980円	5,530円	5,030円	4,880円	4,820円
二条大麦 (50kg当たり)	5,520円	5,100円	4,980円	4,930円	4,660円	4,240円	4,110円	4,060円
六条大麦 (50kg当たり)	6,000円	5,580円	5,450円	5,400円	4,970円	4,550円	4,430円	4,380円
はだか麦 (60kg当たり)	8,610円	8,110円	7,960円	7,870円	7,040円	6,540円	6,390円	6,310円

等級:被害粒の割合や粒揃いの違いで区分。A～Dランク:たんばく質の含有率等の違いで区分

② 大豆

品質区分(等級)	1等	2等	3等
普通大豆(60kg当たり)	9,940円	9,250円	8,570円
特定加工用大豆(60kg当たり)	7,890円		

特定加工用:豆腐・油揚げ、しょうゆ、きなこ等製品の段階において、大豆の原形をとどめない用途に使用する大豆

③ そば

品質区分(等級)	1等	2等
45kg当たり	17,470円	15,360円

等級:容積重の違いや被害粒の割合で区分

④ なたね

品質区分(品種)	キザキノタネ キラリボシ ナナシキブ	その他の 品種
60kg当たり	9,940円	9,200円

⑤ てん菜

品質区分(糖度)	← (+0.1度)	16.3度	→ (▲0.1度)
1t当たり	+ 62円	7,180円	▲ 62円

糖度:てん菜の重量に対するショ糖の含有量

⑥ でん粉原料用ばれいしょ

品質区分 (でん粉含有率)	← (+0.1%)	19.5%	→ (▲0.1%)
1t当たり	+ 64円	11,610円	▲ 64円

でん粉含有率:ばれいしょの重量に対するでん粉の含有量

(2) 支援内容（面積払（営農継続支払））

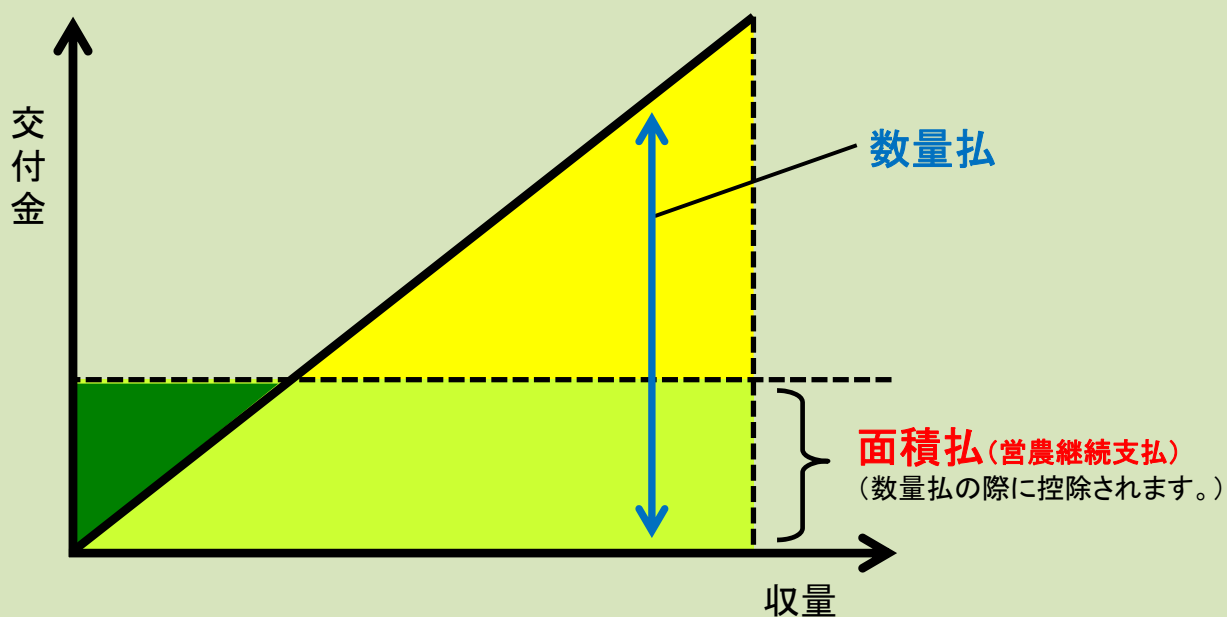
① 交付対象面積

当年産の作付面積に応じて交付

② 交付単価

10a当たり2万円
※「そば」は、10aあたり1万3千円

③ 数量払と面積払（営農継続支払）の関係



交付対象者

※ 交付対象者に変更ありません。

認定農業者、集落営農、認定新規就農者
（いずれも規模要件は課しません。）

対象作物

麦、大豆、そば、なたね
てん菜、でん粉原料用ばれいしょ（北海道産のみ）
（ビール用麦、黒大豆、種子用として生産されるものなどは対象外）

(3) 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）

米・畑作物の収入減少影響緩和対策(ナラシ対策)

【平成30年度予算概算要求額:816(746)億円(所要額)】

米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）は、農家抛出を伴う経営に着目したセーフティーネットであり、米及び畑作物の農業収入全体の減少による影響を緩和するための保険的制度です。

(1) 交付対象者

支援の対象となる農業者は、認定農業者、集落営農、認定新規就農者です（いずれも規模要件はありません）。

※ 集落営農の要件は、2要件（組織の規約の作成、対象作物の共同販売経理の実施）に緩和し、「農業経営の法人化」及び「地域における農地利用の集積」については、市町村が確実に行われると判断するものとします。

(2) 対象農産物

米、麦、大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいしょです。

- ※1 ビール麦、黒大豆、種子用として生産されるものなどは対象となりません。
- ※2 てん菜、でん粉原料用ばれいしょは、北海道で生産されるものが対象です。

【10a当たり標準的収入額とは】

通常年に想定される収入額として、前年産以前5カ年の収入額のうち、最高年と最低年を除いた3カ年の平均収入額で、品目ごと、地域ごとに計算しています。各年産の収入額は、米であれば、地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、地域の実単収を乗じて算出します。

【10a当たり当年産収入額とは】

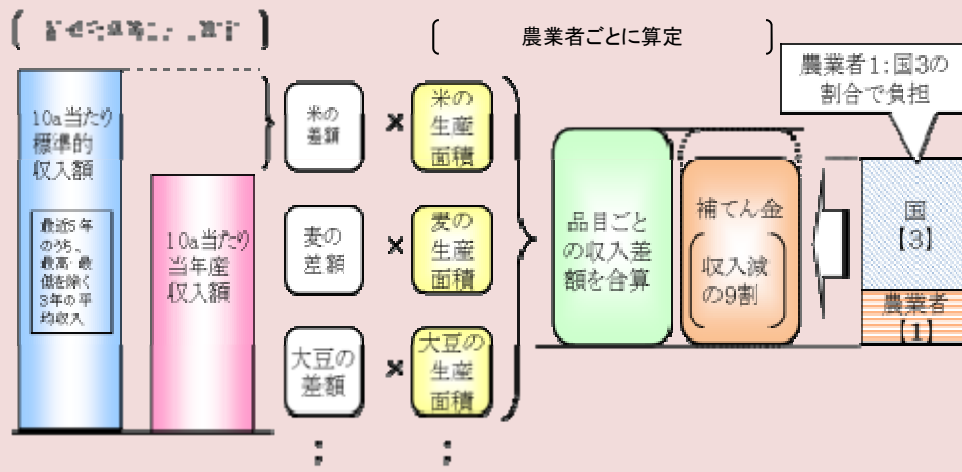
当年産の収入額として、品目ごと、地域ごとに計算しています。当年産の収入額は、米であれば、当年産の地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、当年産の地域の実単収を乗じて算出します。

(3) ナラシ対策の仕組み

- 農業者の米、麦、大豆等の当年産の販売収入の合計（当年産収入額）が、標準的収入額を下回った場合に、その差額の9割を補てんします。

$$\text{補てん額} = (\text{標準的収入額} - \text{当年産収入額}) \times 0.9$$

- 補てんの財源は、農業者と国が1対3の割合で負担します。
- このため、補てんを受けるには、農業者からの積立金の抛出が必要となります。
- 補てん後の積立金の残額は、翌年産へ繰り越されるため、掛け捨てとはなりません。



(参考) 平成28年産ナラシ対策の支払い実績 (平成29年8月31日現在)

全 国 都 道 府 県			加入件数 (件)	支払件数 (件)	補てん総額 (億円)	(参考1) ※ 米の10a当たり 補てん単価 (円/10a)	(参考2) ※ 米加入面積10haの 場合の補てん額の推計 (万円)
全 国			106,991	57,064	178.65		
北 海 道			19,529	14,857	100.47	0	0
東 北	青 森 県		5,082	24	0.02	0	0
	岩 手 県		3,329	3,125	4.73	3,010	30
	宮 城 県		4,291	4,102	5.89	386	3
	秋 田 県		8,602	188	0.32	0	0
	山 形 県		7,597	1	0.00	0	0
	福 島 県		4,878	4,717	0.48	149	1
関 東	茨 城 県		3,140	2,988	3.40	3,612	36
	栃 木 県		5,230	874	1.32	0	0
	群 馬 県		943	302	0.62	0	0
	埼 玉 県		1,252	1,193	0.70	886	8
	千 葉 県		1,088	1,064	0.46	713	7
	東 京 都		3	3	0.00	1,101	11
	神 奈 川 県		125	124	0.03	1,806	18
	山 梨 県		129	116	0.09	3,849	38
	長 野 県		1,429	1,351	3.10	2,989	29
	静 岡 県		326	321	0.78	3,099	30
北 陸	新 潟 県		12,546	4,140	4.58	0	0
	富 山 県		1,506	377	2.53	0	0
	石 川 県		1,783	1,672	0.93	567	5
	福 井 県		1,163	194	0.12	0	0
東 海	岐 阜 県		663	642	3.46	2,485	24
	愛 知 県		614	463	3.44	145	1
	三 重 県		919	446	2.07	0	0
近 畿	滋 賀 県		2,324	2,291	7.42	2,472	24
	京 都 府		325	298	0.14	1,297	12
	大 阪 府		31	30	0.00	270	2
	兵 庫 県		1,109	860	0.75	2,405	24
	奈 良 県		91	80	0.09	8,366	83
	和 歌 山 県		73	0	0.00	0	0
中 国 ・ 四 国	鳥 取 県		399	380	0.99	3,693	36
	島 根 県		719	98	0.20	0	0
	岡 山 県		858	50	0.15	0	0
	広 島 県		516	32	0.06	0	0
	山 口 県		827	769	0.80	538	5
	徳 島 県		160	10	0.01	0	0
	香 川 県		626	591	0.87	670	6
	愛 媛 県		628	601	0.98	4,151	41
	高 知 県		264	222	0.03	1,469	14
						0	0
九 州	福 岡 県		2,084	1,282	7.76	4,380	43
	佐 賀 県		1,573	1,538	14.14	62	0
	長 崎 県		753	698	0.20	0	0
	熊 本 県		3,422	1,586	2.31	0	0
	大 分 県		1,353	515	1.36	0	0
	宮 崎 県		1,702	1,512	0.77	2,073	20
沖 縄	鹿 児 島 県		887	337	0.10	0	0
						0	0

(注1) 加入件数は、平成28年7月31日時点(熊本県は9月末時点)の積立金納付者の件数である。

(注2) 支払件数及び補てん総額は、平成29年8月31日時点の数値である。

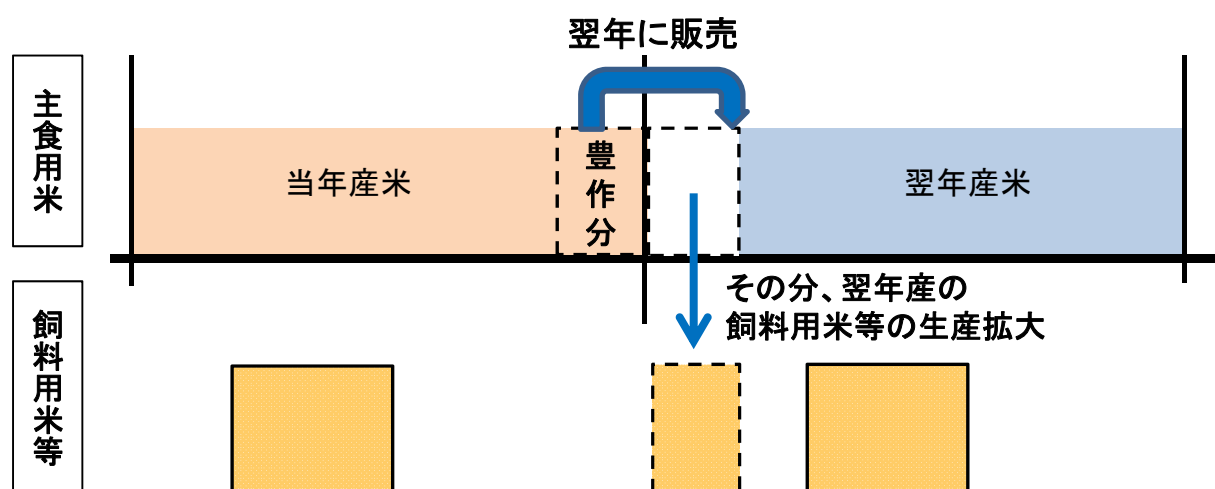
(注3) ラウンドの関係で合計数値は一致しない場合がある。

※ 米の10a当たり補てん単価及び米加入面積10haの場合の補てん額の推計は、20%コースの場合。米のみで試算したものであり、実際の支払では、麦・大豆等との合算相殺がある。また、(参考2)の米加入面積10haの場合の補てん額の推計は、表記上、1万円未満は切り捨てている。

(4) 主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業

① 主食用米の需給安定の考え方

- 「需要に応じた生産を行ってもなお、気象の影響等により、必要な場合」に主食用米を長期計画的に販売する取組や、輸出用など他用途への販売を行う取組等を自主的に実施するための支援措置として、「米穀周年供給・需要拡大支援事業」を実施。（米穀周年供給・需要拡大支援事業：30年度予算概算要求額50億円（対前年同額））
- 平成30年産に向けては、必要がある場合に、この支援措置を活用して、豊作分を翌年に回し、その分、水田活用の直接支払交付金を活用して、翌年産の飼料用米等の生産を拡大して、主食用米の供給を絞るといった取組を定着させ、主食用米の需給の安定を図っていくことが重要。
（水田活用の直接支払交付金：30年度予算概算要求額 3,304億円（対前年+154億円））



② 米穀周年供給・需要拡大支援事業のスキーム

- 業務用等の取引に関するマッチングセミナー・イベントの開催に対して支援。
- 産地の自主的な取組により、需要に応じた生産・販売が行われる環境整備を図る観点から、気象の影響等により必要が生じた場合には、産地の判断により、主食用米を長期計画的に販売する取組や輸出用など他用途への販売を行う取組等を自主的に実施する体制を構築していくことが必要。
- あらかじめ生産者等が積立てを行い、産地の取組を実施する場合に国も一定の支援。

全国事業

業務用等の取引に関するマッチングセミナー・イベントの開催支援(定額)

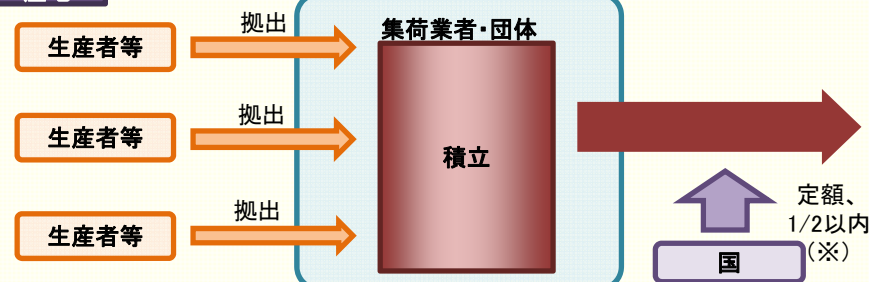
民間団体が行う業務用米の生産・流通の拡大に向けたセミナー、展示商談会を支援。
→ 生産者と実需者の連携(マッチング)促進による安定供給の拡大

〔業務用米取引セミナー〕

〔展示商談会〕



産地



産地自らの自主的な取組

- 主食用米の
- ① 周年安定供給のための長期計画的な販売
 - ② 輸出用向けの販売促進等
 - ③ 業務用向け等の販売促進等
 - ④ 非主食用への販売
- (※) 値引きや価格差補てんのための費用は支援の対象外。

また、取引参加者の利便性を向上させるため、現物市場が共同でシステムの開発・導入を行う場合等に支援。

③ 米穀周年供給・需要拡大支援事業活用状況

米穀周年供給・需要拡大支援事業の各産地の活用状況は、

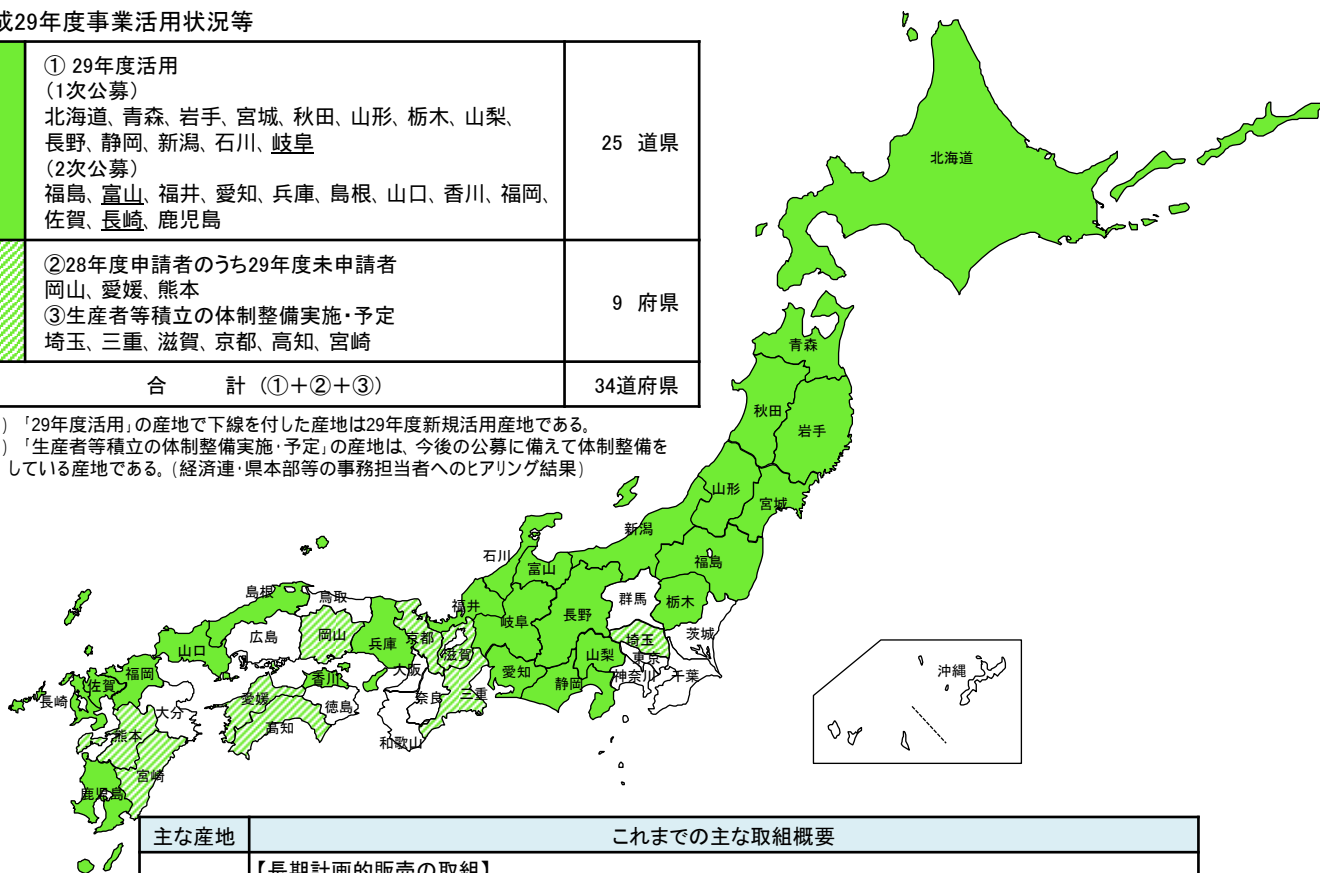
- ・ 平成27年度では17道県（18事業者）、平成28年度では25道県（27事業者）が活用。
- ・ 平成29年度は25道県（27事業者）が活用している状況にあり、出来秋の需給対策として、今後とも本事業を継続・推進。

平成29年度事業活用状況等

① 29年度活用 (1次公募) 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、栃木、山梨、 長野、静岡、新潟、石川、岐阜 (2次公募) 福島、富山、福井、愛知、兵庫、島根、山口、香川、福岡、 佐賀、長崎、鹿児島	25 道県
② 28年度申請者のうち29年度未申請者 岡山、愛媛、熊本 ③ 生産者等積立の体制整備実施・予定 埼玉、三重、滋賀、京都、高知、宮崎	9 府県
合 計 (①+②+③)	34道府県

注1) 「29年度活用」の産地で下線を付した産地は29年度新規活用産地である。

注2) 「生産者等積立の体制整備実施・予定」の産地は、今後の公募に備えて体制整備をしている産地である。(経済連・県本部等の事務担当者へのヒアリング結果)



主な産地	これまでの主な取組概要
北海道	【長期計画的販売の取組】 ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 【輸出向けへの販売促進等の取組】 ・ 海外向け北海道米PRパンフレットの作成配布 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ キャラクター(マスコット・デラックス)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「ゆめぴりか」のPR ・ 認知度向上に向けた情報収集、データ分析による販路拡大手法の検討
秋田	【長期計画的な販売の取組】 ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ キャラクター(小芝 風花)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「あきたこまち」のPR ・ 食味分析データを用いた販売促進パンフレットの作成配布 ・ 外食事業者等が参加する各種商談会での試食等の実施
山形	【輸出向けへの販売促進等の取組】 ・ 海外百貨店等での「つや姫」、「はえぬき」PRキャンペーンの開催 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ キャラクター(V6 長野 博)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「はえぬき」のPR ・ 販路拡大に向けたコンサルティング活動
栃木	【長期計画的な販売の取組】 ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ 地元出身書道家(涼 風花)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「とちほのか」のPR ・ 公共交通機関のラッピングバス等を活用したPR
石川	【長期計画的販売の取組】 ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 【輸出向けへの販売促進等の取組】 ・ 現地市場等調査による実需者ニーズの把握や石川県産米パンフレットの作成配布 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ 各種メディアを活用した石川県産米のPR ・ 毎月2日を「おにぎりの日」に制定し、これを起点にした試食イベント等の開催

VI 消費動向

(1) 米の消費動向（米穀機構による調査）

○ 本調査は、調査実施機関（株）マクロミルのモニターの中から、本調査への協力の意向を示した消費世帯を対象としている（インターネット調査）。

- 米穀機構が公表している「米の消費動向」（平成29年9月）によると、1人1ヵ月当たりの精米消費量は、前年同月との比較で▲3.1%。
- このうち、家庭内での消費量は前年同月との比較で▲0.7%、中・外食は同▲8.4%。

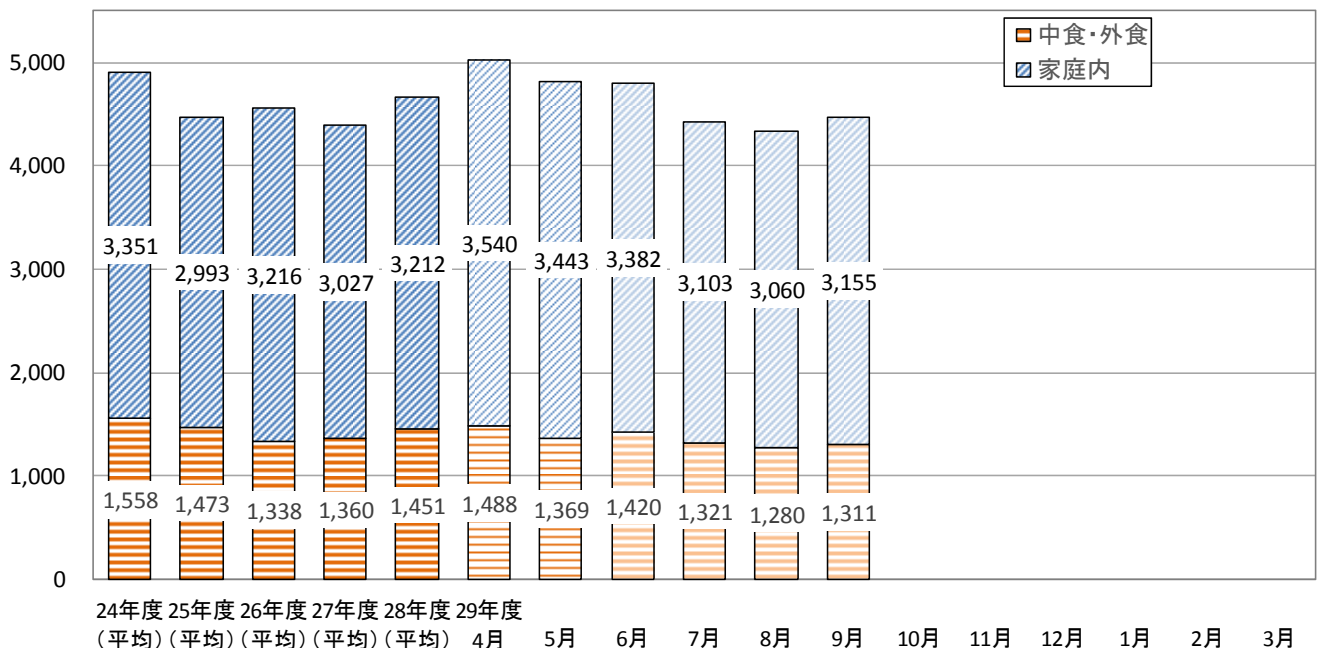
① 1人1ヵ月当たり精米消費量の推移

（精米g／人、%）

		精米消費量					内訳(比率)					前年同月比(比率)				
		合計					合計					合計				
		家庭内	中・外食	中食	外食	家庭内	中・外食	中食	外食	家庭内	中・外食	中食	外食			
24年度	-	4,909	3,351	1,558	900	658	100.0	68.3	31.7	18.3	13.4	1.4	4.4	▲ 4.4	▲ 3.1	▲ 6.1
25年度	-	4,466	2,993	1,473	846	627	100.0	67.0	33.0	18.9	14.0	▲ 9.0	▲ 10.7	▲ 5.5	▲ 6.0	▲ 4.7
26年度	-	4,554	3,216	1,338	758	580	100.0	70.6	29.4	16.6	12.7	2.0	7.5	▲ 9.2	▲ 10.4	▲ 7.5
27年度	-	4,386	3,027	1,360	793	567	100.0	69.0	31.0	18.1	12.9	▲ 3.7	▲ 5.9	1.6	4.6	▲ 2.2
28年度	-	4,663	3,212	1,451	852	599	100.0	68.9	31.1	18.3	12.8	6.3	6.1	6.7	7.4	5.6
29年度	4月	5,028	3,540	1,488	908	580	100.0	70.4	29.6	18.1	11.5	0.5	3.4	▲ 5.9	▲ 4.2	▲ 8.4
	5月	4,812	3,443	1,369	833	536	100.0	71.6	28.4	17.3	11.1	▲ 1.2	3.0	▲ 10.1	▲ 9.0	▲ 11.8
	6月	4,802	3,382	1,420	871	549	100.0	70.4	29.6	18.1	11.4	▲ 0.1	3.6	▲ 7.7	▲ 5.3	▲ 11.2
	7月	4,424	3,103	1,321	751	570	100.0	70.1	29.9	17.0	12.9	▲ 1.9	2.6	▲ 11.2	▲ 13.9	▲ 7.3
	8月	4,340	3,060	1,280	731	549	100.0	70.5	29.5	16.8	12.6	▲ 4.4	▲ 1.5	▲ 10.8	▲ 12.6	▲ 8.5
	9月	4,466	3,155	1,311	740	571	100.0	70.6	29.4	16.6	12.8	▲ 3.1	▲ 0.7	▲ 8.4	▲ 12.0	▲ 3.2

1人1ヵ月当たり精米消費量の推移(グラフ)

（精米g／人）



出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：1 平成29年9月分の有効調査世帯数は1,643世帯。

2 調査対象世帯の入れ替えや補充による調査結果の補正は行っていないため、調査結果の経年比較等の際には、留意が必要である。

3 家庭内消費量については、調査当月の月初と月末の精米在庫量及び精米購入数量から把握、中食・外食の消費量については、調査当月の家庭炊飯以外で食べた米飯の数量から推計。

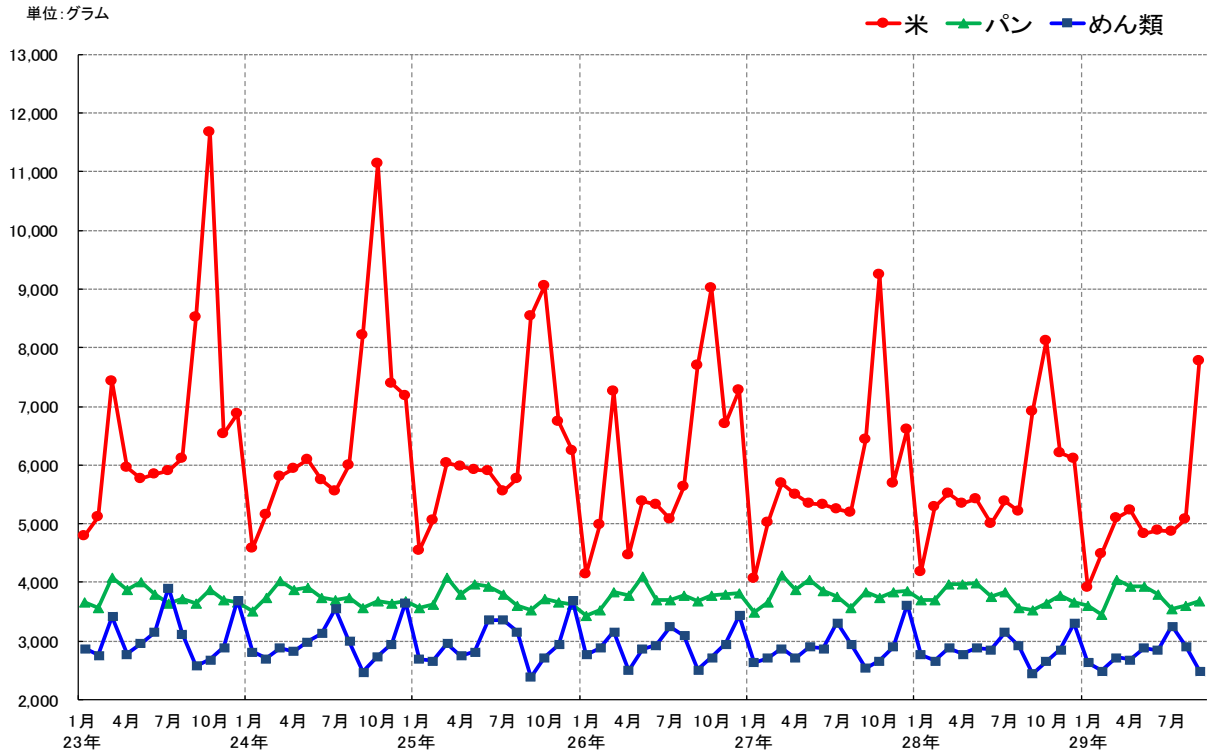
4 集計に際しては、地域毎に世帯人員構成比が平成22年国勢調査「世帯人員構成比」に沿うよう調整した上で推計。

5 四捨五入の関係で合計と内訳が合わない場合がある。

(2) 購入数量の推移（家計調査）

- 総務省が公表している家計調査によると、平成29年9月の米の購入数量は、前年同月との比較で+12.6%の7.8kg、パンについては+3.9%の3.7kg、めん類については+1.9%の2.5kg。

1世帯当たり購入数量の推移



(表) 1世帯当たり購入数量の推移

(単位：グラム)

	米		パン		めん類	
	購入数量	対前年 (同月)比	購入数量	対前年 (同月)比	購入数量	対前年 (同月)比
平成20年	88,550	103.8%	44,445	98.2%	35,899	101.2%
平成21年	85,110	96.1%	45,599	102.6%	36,615	102.0%
平成22年	83,010	97.5%	45,443	99.7%	37,000	101.1%
平成23年	80,580	97.1%	45,255	99.6%	36,931	99.8%
平成24年	78,780	97.8%	44,808	99.0%	35,819	97.0%
平成25年	75,170	95.4%	44,927	100.3%	35,560	99.3%
平成26年	73,050	97.2%	44,926	100.0%	35,176	98.9%
平成27年	69,510	95.2%	45,676	101.7%	34,753	98.8%
平成28年	68,740	98.9%	45,099	98.7%	34,192	98.4%
平成29年1月	3,920	93.8%	3,607	97.7%	2,637	95.2%
2月	4,480	84.8%	3,457	93.6%	2,496	93.8%
3月	5,090	92.2%	4,056	102.4%	2,725	94.4%
4月	5,230	97.9%	3,929	98.8%	2,685	96.7%
5月	4,840	89.1%	3,925	98.3%	2,882	99.9%
6月	4,880	97.6%	3,790	100.6%	2,846	99.5%
7月	4,860	90.2%	3,548	92.6%	3,254	103.2%
8月	5,070	97.3%	3,609	101.4%	2,918	99.8%
9月	7,780	112.6%	3,674	103.9%	2,490	101.9%

資料：総務省「家計調査」

注：1 二人以上の世帯の数値である。

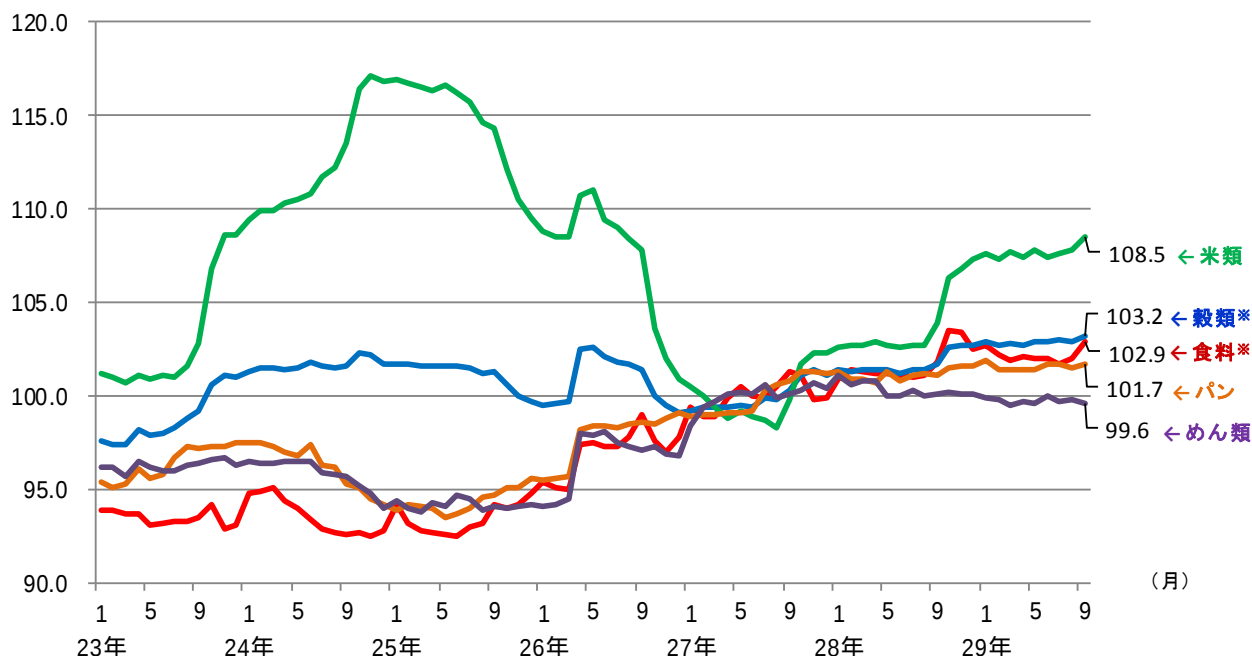
2 平成20年から平成28年については、年間の購入数量を示す。

3 米は精米ベースである。

(3) 消費者物価指数（27年基準）の推移

- ・ 総務省が公表している消費者物価指数によると、平成29年9月の米類の指数は、先月との比較では+0.7の108.5ポイント。
- ・ なお、前年同月との比較では+4.4ポイント。

消費者物価指数の推移



- 注：1 図中の実線は、平成27年の平均価格を100とした数値となる。
 2 図中の数値は、平成29年9月の消費者物価指数となる。
 3 図中の食料とは穀類、魚介類、肉類等を、穀類とは米類、パン、めん類、他の穀類をいう。

(表) 消費者物価指数の推移（対前年同月比）

(平成27年=100、指数)

	食料		穀類		米類		うるち米		パン		めん類	
		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比
平成20年	93.9	2.6%	102.9	6.4%	110.7	▲1.3%	111.4	▲1.3%	99.8	12.6%	97.2	11.7%
平成21年	94.1	0.2%	103.7	0.8%	111.1	0.4%	111.6	0.2%	100.1	0.3%	98.8	1.7%
平成22年	93.9	▲0.3%	100.4	▲3.2%	107.2	▲3.5%	107.7	▲3.5%	96.2	▲3.9%	97.0	▲1.9%
平成23年	93.5	▲0.4%	98.8	▲1.6%	103.0	▲4.0%	103.4	▲4.0%	96.4	0.2%	96.2	▲0.8%
平成24年	93.6	0.1%	101.7	3.0%	112.4	9.2%	113.3	9.6%	96.3	▲0.1%	95.8	▲0.4%
平成25年	93.4	▲0.1%	101.2	▲0.5%	114.6	2.0%	115.7	2.1%	94.4	▲1.9%	94.2	▲1.7%
平成26年	97.0	3.8%	100.8	▲0.4%	107.4	▲6.3%	107.9	▲6.8%	97.8	3.6%	96.6	2.6%
平成27年	100.0	3.1%	100.0	▲0.8%	100.0	▲6.9%	100.0	▲7.3%	100.0	2.2%	100.0	3.5%
平成28年	101.7	1.7%	101.7	1.7%	103.8	3.8%	104.0	4.0%	101.2	1.2%	100.3	0.3%
平成29年1月	102.7	1.8%	102.9	1.5%	107.6	4.9%	108.0	5.2%	101.9	0.5%	99.9	▲1.1%
2月	102.2	0.8%	102.7	1.4%	107.3	4.5%	107.6	4.7%	101.4	0.5%	99.8	▲0.8%
3月	101.9	0.5%	102.8	1.3%	107.7	4.9%	108.1	5.1%	101.4	0.6%	99.5	▲1.3%
4月	102.1	0.9%	102.7	1.3%	107.4	4.4%	107.7	4.7%	101.4	0.7%	99.7	▲1.0%
5月	102.0	0.8%	102.9	1.4%	107.8	5.0%	108.1	5.3%	101.4	0.1%	99.6	▲0.4%
6月	102.0	0.8%	102.9	1.7%	107.4	4.6%	107.7	4.9%	101.7	0.9%	100.0	▲0.1%
7月	101.7	0.6%	103.0	1.5%	107.6	4.8%	107.9	5.0%	101.7	0.6%	99.7	▲0.5%
8月	102.0	0.9%	102.9	1.5%	107.8	4.9%	108.1	5.2%	101.5	0.3%	99.8	▲0.2%
9月	102.9	1.0%	103.2	1.4%	108.5	4.4%	108.9	4.6%	101.7	0.5%	99.6	▲0.5%

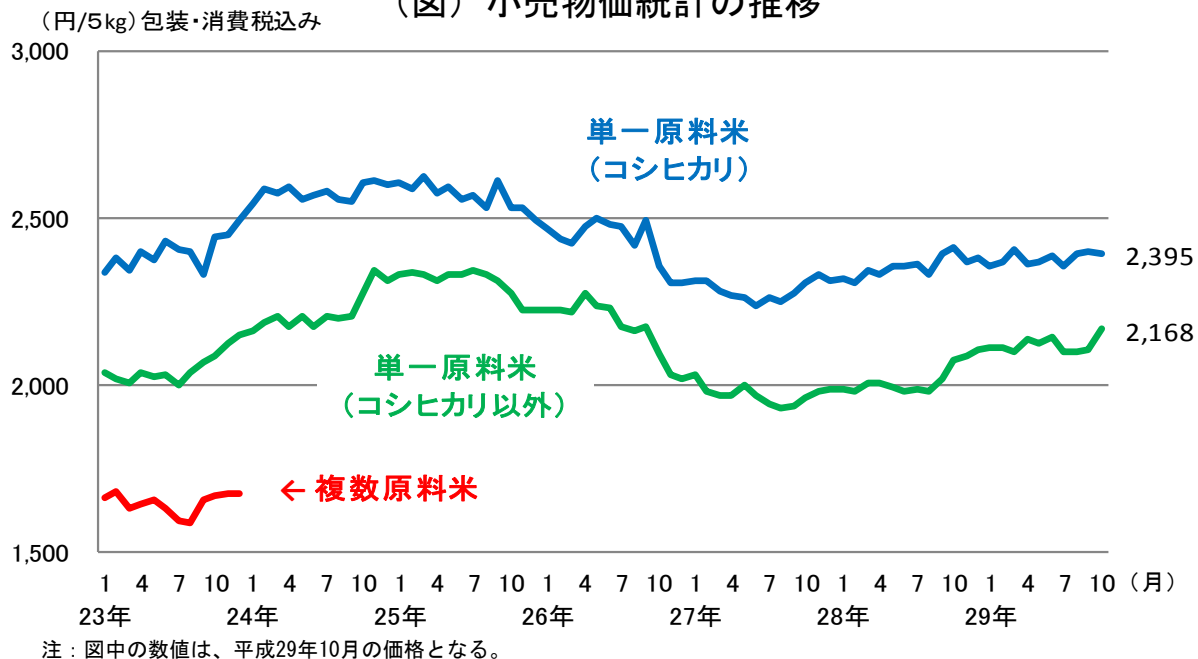
資料：総務省「消費者物価指数」（平成27年基準）

- 注：1 表中の数値は、平成27年の平均価格を100として指数化したものである。
 2 食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。
 3 穀類は、米類（うるち米、もち米）、パン、めん類、他の穀類からなる。
 4 平成20年から平成28年のデータは年平均、平成29年1月以降は月次データを用いている。

(4) 小売物価統計の推移

- 総務省が公表している小売物価統計によると、平成29年10月のうるち米の小売価格（5kg当たり）は、単一原料米（コシヒカリ）で、前年同月より▲0.7%の2,395円。
- 単一原料米（コシヒカリ以外）は、前年同月より+4.3%の2,168円。

(図) 小売物価統計の推移



(表) 小売物価統計の推移

(単位：円/5kg)

	うるち米				
	単一原料米 (コシヒカリ)	対前年 (同月)比	単一原料米 (コシヒカリ以外)	対前年 (同月)比	複数原料米
平成20年	2,610	▲2.2%	2,270	▲0.8%	1,832
平成21年	2,531	▲3.0%	2,201	▲3.0%	1,812
平成22年	2,462	▲2.7%	2,136	▲3.0%	1,739
平成23年	2,399	▲2.5%	2,053	▲3.9%	1,649
平成24年	2,577	7.4%	2,223	8.3%	—
平成25年	2,567	▲0.4%	2,307	3.8%	—
平成26年	2,428	▲5.4%	2,173	▲5.8%	—
平成27年	2,285	▲5.9%	1,973	▲9.2%	—
平成28年	2,355	3.1%	2,019	2.3%	—
平成29年1月	2,355	1.6%	2,111	6.1%	—
2月	2,370	2.6%	2,112	6.7%	—
3月	2,406	2.7%	2,100	4.6%	—
4月	2,362	1.4%	2,137	6.6%	—
5月	2,371	0.6%	2,124	6.5%	—
6月	2,385	1.2%	2,143	8.0%	—
7月	2,359	0.0%	2,098	5.4%	—
8月	2,391	2.5%	2,101	6.1%	—
9月	2,403	0.5%	2,108	4.4%	—
10月	2,395	▲0.7%	2,168	4.3%	—

資料：総務省「小売物価統計」

注1：東京都区部の数値である。

2：特売を除いた価格である。

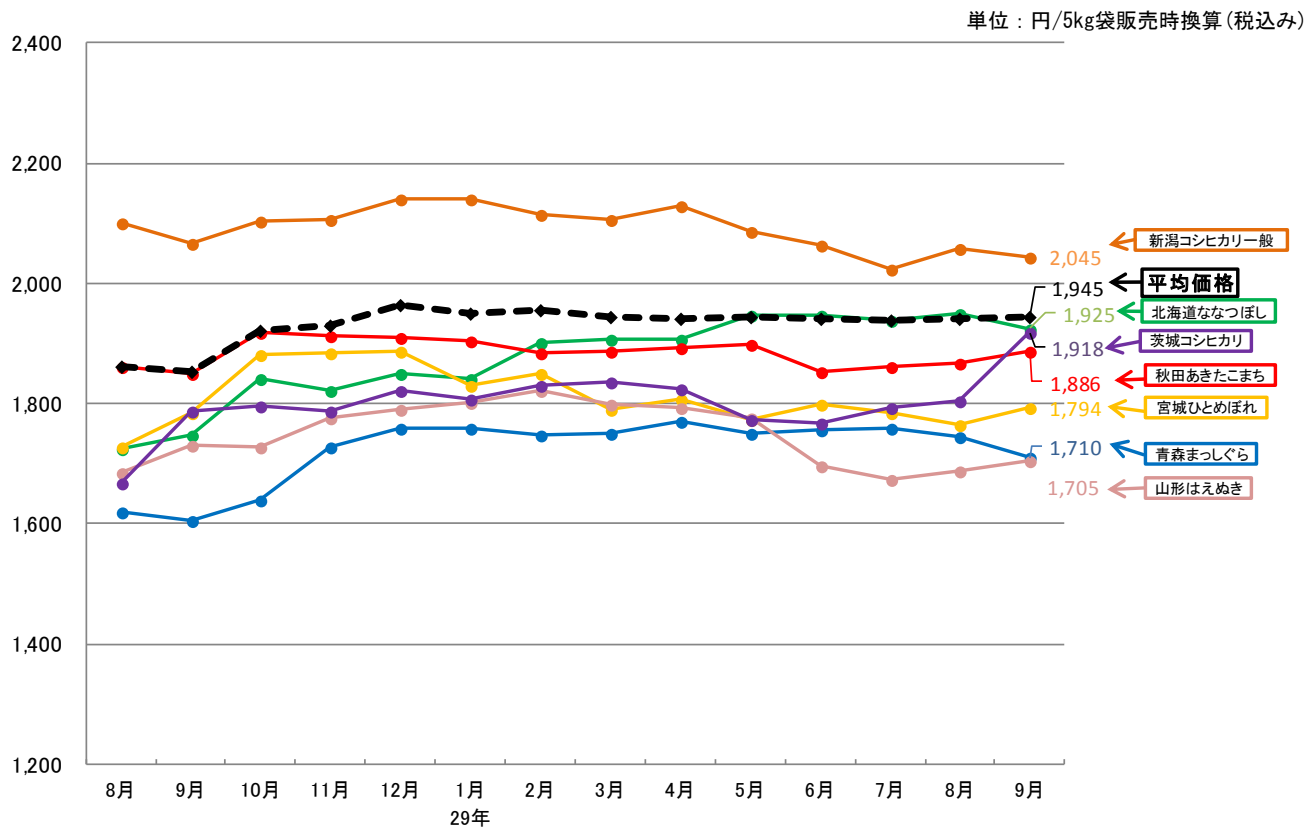
3：精米ベースである。

4：複数原料米については、平成23年12月をもって調査が終了した。

(5) 小売価格の推移 (POSデータ)

平成29年9月の小売価格(POSデータ)の平均価格(5kg当たり)は、前月より+3円(+0.1%)、前年同月より+92円(+5.0%)の1,945円。

(図)小売価格の推移



(表)小売価格の推移

単位：円/5kg袋販売時換算(消費税込み)

	品種銘柄							全POS取引 平均価格
	北海道 ななつぼし	青森 まっしぐら	宮城 ひとめぼれ	秋田 あきたこまち	山形 はえぬき	茨城 コシヒカリ	新潟 コシヒカリ一般	
28年9月	1,746	1,604	1,785	1,849	1,732	1,789	2,065	1,853
10月	1,842	1,639	1,882	1,919	1,729	1,796	2,103	1,921
11月	1,823	1,727	1,885	1,913	1,776	1,788	2,106	1,931
12月	1,850	1,760	1,887	1,910	1,792	1,821	2,140	1,963
29年1月	1,843	1,759	1,830	1,905	1,802	1,808	2,141	1,949
2月	1,902	1,749	1,852	1,885	1,821	1,831	2,114	1,957
3月	1,907	1,751	1,792	1,887	1,798	1,835	2,105	1,945
4月	1,908	1,771	1,807	1,894	1,793	1,824	2,128	1,941
5月	1,948	1,750	1,775	1,898	1,776	1,773	2,086	1,944
6月	1,948	1,755	1,799	1,853	1,698	1,767	2,062	1,941
7月	1,939	1,759	1,784	1,862	1,673	1,795	2,023	1,937
8月	1,950	1,745	1,765	1,868	1,687	1,806	2,057	1,942
9月	1,925	1,710	1,794	1,886	1,705	1,918	2,045	1,945
対前月比	▲ 1.3%	▲ 2.0%	1.6%	0.9%	1.1%	6.2%	▲ 0.6%	0.1%
対前年同月比	10.2%	6.6%	0.5%	2.0%	▲ 1.6%	7.2%	▲ 1.0%	5.0%

資料：(株) KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成
注：1 (株) KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,010店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。
2 POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。
3 POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。
4 平均価格は、POSデータで把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。
5 価格に含む消費税は8%である。

Ⅶ MA米（一般・SBS）の動向

（１） MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

（単位：千玄米トン）

	米 国	タ イ	中 国	オーストラリア	その他	合 計	うち一般輸入	うちSBS輸入※
平成7年度	194	107	32	87	5	426	415	11
平成8年度	233	144	40	87	6	511	488	22
平成9年度	290	151	46	95	13	596	537	55
平成10年度	313	152	78	109	29	681	551	120
平成11年度	339	159	86	115	24	724	591	120
平成12年度	356	168	99	120	24	767	632	120
平成13年度	364	146	136	110	11	767	655	100
平成14年度	361	153	112	96	44	767	710	50
平成15年度	355	153	110	90	51	759	647	100
平成16年度	361	185	98	20	103	767	661	94
平成17年度	362	186	84	19	116	767	655	100
平成18年度	358	179	76	52	102	767	654	100
平成19年度	358	243	82	－	13	696	585	100
平成20年度	430	261	72	－	6	769	658	100
平成21年度	358	332	71	－	5	767	655	100
平成22年度	356	345	19	40	6	767	725	37
平成23年度	358	241	56	71	40	767	658	100
平成24年度	362	281	46	64	13	767	656	100
平成25年度	359	351	1	41	15	767	700	61
平成26年度	359	332	55	14	6	767	754	12
平成27年度	359	344	56	1	6	767	734	29
平成28年度	376	375	3	7	7	767	685	73
平成29年度 (10月末現在)	132	122	14	33	－	301	276	25

資料： 農林水産省「米をめぐる関係資料」

※SBS輸入数量の単位は千実トン。

注： 1 各年度の輸入契約数量の推移。

2 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しないことがある。

3 千実トンと千玄米トンのため合計は一致しないことがある。

（参考）MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

(2) 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果(平成29年度)

(単位：実トン)

販売期間	うち	販売期間	もち
平成29年4～6月分	30,226	平成29年4～7月分	3,071
4月分	405	平成29年8～11月分	
5月分	678	平成29年12～平成30年3月分	
6月分	1,000		
7～9月分	30,935		
7月分	206		
8月分	602		
9月分	1,073		
10～12月分			
10月分			
11月分			
12月分			
平成30年1～3月分			
1月分			
2月分			
3月分			
小 計	65,125	小 計	3,071
合計	68,196		

資料：農林水産省「加工原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の見積合わせ結果の概要について」

(3) SBS輸入米の見積合わせ結果(平成29年度)

(単位：実トン)

		アメリカ		タイ		中国		その他		合計
		うち	もち	うち	もち	うち	もち	うち	もち	
第1回 (平成29年9月27日)	一般米	15,150	496	140	0	900	0	5,814	0	22,500
	砕精米	1,998	100	300	0	100	0	0	0	2,498
平成23年度計 (参考)	一般米	7,490	5,324	2,038	80	50,463	0	17,155	0	82,550
	砕精米	10,124	990	2,320	3,384	632	0	0	0	17,450
平成24年度計 (参考)	一般米	34,076	2,290	1,536	72	27,640	0	24,386	0	90,000
	砕精米	4,032	576	2,898	364	524	0	1,606	0	10,000
平成25年度計 (参考)	一般米	14,686	4,396	3,346	144	174	0	17,993	0	40,739
	砕精米	576	388	7,375	308	540	0	10,913	0	20,100
平成26年度計 (参考)	一般米	662	2,418	2,732	72	80	0	1,326	0	7,290
	砕精米	0	724	2,540	252	700	0	100	0	4,316
平成27年度計 (参考)	一般米	4,251	3,458	2,762	72	76	0	2,244	0	12,863
	砕精米	10,940	1,260	2,420	1,022	660	0	150	0	16,452
平成28年度計 (参考)	一般米	27,318	3,600	3,487	108	2,156	0	8,097	0	44,766
	砕精米	24,820	700	2,300	388	240	0	100	0	28,548

資料：農林水産省「輸入米に係るSBSの結果の概要」の平成23～29年度

その他

(1) 水稻うるち玄米の農産物検査結果

- 平成29年産水稻うるち玄米の平成29年9月30日現在の検査数量は、146万トン。
- 1等米比率は、80.8%。

検査数量の推移（累計）

単位：千トン

年産別	当年						翌年			
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	10月
24	13	223	1,732	3,750	4,156	4,313	4,411	4,532	4,657	5,041
25	23	265	1,869	3,806	4,248	4,433	4,537	4,661	4,793	5,206
26	12	229	1,789	3,785	4,276	4,470	4,595	4,720	4,880	5,275
27	11	220	1,537	3,506	3,964	4,149	4,252	4,385	4,518	4,869
28	18	231	1,656	3,564	4,036	4,212	4,319	4,451	4,585	
参考：前年比	161%	105%	108%	102%	102%	102%	102%	101%	101%	
29	13	244	1,463							
参考：前年比	72%	105%	88%							

注：1 各月末時点の検査数量である。

2 生産年の7月から翌年3月までは速報値、翌年10月は確定値である。

検査数量及び等級比率（年産別）

単位：トン、%

年産別	検査数量	等級別数量				等級比率			
		1等	2等	3等	規格外	1等	2等	3等	規格外
18	4,776,481	3,746,166	822,163	112,475	95,677	78.4	17.2	2.4	2.0
19	4,805,870	3,826,432	795,452	95,082	88,903	79.6	16.6	2.0	1.8
20	5,093,440	4,073,571	849,087	76,542	94,240	80.0	16.7	1.5	1.9
21	4,818,603	4,102,807	582,137	48,396	85,263	85.1	12.1	1.0	1.8
22	4,859,642	3,013,076	1,570,194	152,813	123,559	62.0	32.3	3.1	2.5
23	4,753,193	3,840,127	759,339	60,000	93,727	80.8	16.0	1.3	2.0
24	5,041,489	3,953,978	910,522	82,760	94,229	78.4	18.1	1.6	1.9
25	5,205,717	4,112,147	905,866	96,289	91,415	79.0	17.4	1.8	1.8
26	5,274,634	4,291,267	806,063	70,348	106,956	81.4	15.3	1.3	2.0
27	4,868,582	4,016,682	687,771	82,654	81,475	82.5	14.1	1.7	1.7
28(注2)	4,584,593	3,824,029	635,059	62,986	62,518	83.4	13.9	1.4	1.4
29(注3)	1,462,818	1,181,743	244,737	26,086	10,253	80.8	16.7	1.8	0.7

資料：農林水産省とりまとめ

注：1 等級比率は、1等であれば農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合である。

2 28年産米については、平成29年3月31日現在（速報値）。

3 29年産米については、平成29年9月30日現在（速報値）。

(2) 平成29年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）

全 国 都道府県	作付面積（子実用）			10 a 当たり 予想収量 ②	（参考）農家等が使用している ふるい目幅で選別		
	実 数 ①	前年産との比較			10 a 当たり 予想収量 ③	10 a 当たり 平年収量 ④	作況指数 ⑤＝③／④
		対差	対比				
	ha	ha	%	kg	kg	kg	
全 国 (1)	1,465,000	△ 13,000	99	534	517	518	100
北 海 道 (2)	103,900	△ 1,100	99	560	546	530	103
青 森 (3)	43,400	800	102	596	576	573	101
岩 手 (4)	49,800	△ 500	99	533	511	522	98
宮 城 (5)	66,300	△ 300	100	535	512	519	99
秋 田 (6)	86,900	△ 300	100	574	550	556	99
山 形 (7)	64,500	△ 500	99	598	578	580	100
福 島 (8)	64,000	△ 200	100	549	529	527	100
茨 城 (9)	68,100	△ 1,200	98	525	510	515	99
栃 木 (10)	57,600	200	100	510	492	529	93
群 馬 (11)	15,500	100	101	499	481	479	100
埼 玉 (12)	31,600	△ 100	100	494	478	475	101
千 葉 (13)	55,200	△ 500	99	543	529	528	100
東 京 (14)	141	△ 10	93	411	400	404	99
神 奈 川 (15)	3,090	△ 30	99	509	488	478	102
新 潟 (16)	116,300	△ 500	100	526	505	527	96
富 山 (17)	37,600	△ 500	99	546	528	527	100
石 川 (18)	25,300	△ 300	99	519	504	507	99
福 井 (19)	24,900	△ 200	99	525	503	500	101
山 梨 (20)	4,960	△ 30	99	549	531	533	100
長 野 (21)	32,300	△ 400	99	629	616	607	101
岐 阜 (22)	21,900	△ 300	99	488	479	478	100
静 岡 (23)	15,700	△ 300	98	515	506	513	99
愛 知 (24)	27,500	△ 200	99	512	503	499	101
三 重 (25)	27,400	△ 200	99	480	466	489	95
滋 賀 (26)	31,700	△ 200	99	517	504	506	100
京 都 (27)	14,700	△ 100	99	510	501	502	100
大 阪 (28)	5,150	△ 160	97	506	490	480	102
兵 庫 (29)	36,600	△ 400	99	502	491	489	100
奈 良 (30)	8,610	△ 100	99	522	510	500	102
和 歌 山 (31)	6,560	△ 160	98	507	496	484	102
鳥 取 (32)	12,600	△ 100	99	520	510	504	101
島 根 (33)	17,500	△ 200	99	519	510	500	102
岡 山 (34)	30,100	△ 300	99	544	530	514	103
広 島 (35)	23,700	△ 400	98	534	524	513	102
山 口 (36)	20,300	△ 700	97	522	508	492	103
徳 島 (37)	11,500	△ 200	98	480	476	469	101
早期栽培 (38)	4,450	△ 20	100	481	477	459	104
普通栽培 (39)	7,080	△ 100	99	479	475	475	100
香 川 (40)	12,800	△ 400	97	484	480	490	98
愛 媛 (41)	13,900	△ 300	98	508	503	492	102
高 知 (42)	11,600	△ 200	98	470	466	454	103
早期栽培 (43)	6,500	△ 80	99	498	495	477	104
普通栽培 (44)	5,060	△ 120	98	435	430	426	101
福 岡 (45)	35,700	△ 300	99	509	488	477	102
佐 賀 (46)	24,600	△ 200	99	536	516	503	103
長 崎 (47)	11,600	△ 400	97	495	469	463	101
熊 本 (48)	33,300	△ 500	99	527	508	497	102
大 分 (49)	21,000	△ 300	99	508	484	480	101
宮 崎 (50)	16,300	△ 500	97	499	485	482	101
早期栽培 (51)	6,460	△ 270	96	494	486	470	103
普通栽培 (52)	9,870	△ 130	99	503	485	490	99
鹿 児 島 (53)	20,400	△ 600	97	487	468	469	100
早期栽培 (54)	4,460	△ 150	97	472	464	434	107
普通栽培 (55)	16,000	△ 400	98	491	469	478	98
沖 縄 (56)	727	△ 58	93	305	300	305	98
第一期稲 (57)	537	△ 23	96	354	350	363	96
第二期稲 (58)	190	△ 35	84	...	...	...	...

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。

2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積（見込み）である。

3 （参考）農家等が使用しているふるい目幅で選別の③10a当たり予想収量、④10a当たり平年収量及び⑤作況指数については、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

予想収穫量（子実用）			参 考		
実 数 ⑥＝①×②	前年産との比較		主 食 用 作 付 見 込 面 積 ⑦	予 想 収 穫 量 （ 主 食 用 ） ⑧＝⑦×②	
	対差	対比			
t	t	%	ha	t	
7, 825, 000	△ 217, 000	97	1, 370, 000	7, 309, 000	(1)
581, 800	3, 200	101	98, 600	552, 200	(2)
258, 700	1, 400	101	38, 000	226, 500	(3)
265, 400	△ 6, 200	98	47, 000	250, 500	(4)
354, 700	△ 14, 300	96	63, 500	339, 700	(5)
498, 800	△ 16, 600	97	69, 500	398, 900	(6)
385, 700	△ 9, 500	98	56, 400	337, 300	(7)
351, 400	△ 4, 900	99	59, 900	328, 900	(8)
357, 500	△ 3, 600	99	66, 400	348, 600	(9)
293, 800	△ 22, 500	93	53, 600	273, 400	(10)
77, 300	△ 500	99	13, 900	69, 400	(11)
156, 100	△ 500	100	30, 700	151, 700	(12)
299, 700	△ 6, 100	98	53, 300	289, 400	(13)
580	△ 47	93	141	580	(14)
15, 700	300	102	3, 090	15, 700	(15)
611, 700	△ 66, 900	90	100, 300	527, 600	(16)
205, 300	△ 10, 300	95	33, 300	181, 800	(17)
131, 300	△ 5, 400	96	23, 200	120, 400	(18)
130, 700	△ 3, 600	97	23, 300	122, 300	(19)
27, 200	△ 100	100	4, 880	26, 800	(20)
203, 200	△ 800	100	31, 300	196, 900	(21)
106, 900	△ 1, 000	99	21, 500	104, 900	(22)
80, 900	△ 3, 100	96	15, 600	80, 300	(23)
140, 800	△ 3, 500	98	26, 600	136, 200	(24)
131, 500	△ 12, 600	91	26, 800	128, 600	(25)
163, 900	△ 6, 400	96	30, 000	155, 100	(26)
75, 000	△ 1, 400	98	14, 100	71, 900	(27)
26, 100	△ 700	97	5, 150	26, 100	(28)
183, 700	△ 1, 700	99	35, 100	176, 200	(29)
44, 900	△ 800	98	8, 580	44, 800	(30)
33, 300	△ 800	98	6, 560	33, 300	(31)
65, 500	△ 800	99	12, 400	64, 500	(32)
90, 800	△ 2, 700	97	17, 200	89, 300	(33)
163, 700	1, 700	101	29, 100	158, 300	(34)
126, 600	△ 1, 400	99	23, 100	123, 400	(35)
106, 000	△ 1, 500	99	19, 300	100, 700	(36)
55, 200	△ 2, 100	96	11, 300	54, 200	(37)
21, 400	△ 100	100	...	...	(38)
33, 900	△ 1, 800	95	...	...	(39)
62, 000	△ 5, 100	92	12, 800	62, 000	(40)
70, 600	△ 1, 500	98	13, 900	70, 600	(41)
54, 500	500	101	11, 500	54, 100	(42)
32, 400	800	103	...	...	(43)
22, 000	△ 200	99	...	...	(44)
181, 700	1, 300	101	35, 100	178, 700	(45)
131, 900	2, 700	102	24, 400	130, 800	(46)
57, 400	△ 2, 100	96	11, 600	57, 400	(47)
175, 500	△ 2, 600	99	32, 200	169, 700	(48)
106, 700	△ 700	99	20, 900	106, 200	(49)
81, 300	△ 2, 400	97	15, 000	74, 900	(50)
31, 900	900	103	...	...	(51)
49, 600	△ 2, 700	95	...	...	(52)
99, 300	△ 2, 100	98	19, 600	95, 500	(53)
21, 100	1, 300	107	...	...	(54)
78, 600	△ 3, 100	96	...	...	(55)
2, 220	△ 80	97	727	2, 220	(56)
1, 900	△ 70	96	...	...	(57)
...	...	...	...	...	(58)

4 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作期別の主食用作付見込面積は、備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「...」で示している。

5 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから「...」で示しており、沖縄県計の10a当たり予想収量及び予想収穫量の算出には、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平年収量を用いた。

これまで、本資料に掲載していた以下の情報については、別冊「資料編」に掲載いたしました。

(別冊)「資料編」の目次

I	契約・在庫情報	
(1)	平成27・28年産の産地別民間在庫の推移 (うるち米、平成28年7月末から29年6月末) (速報)	1
(2)	産地別事前契約数量 (累計、うるち米、平成26年産から29年9月末) (速報)	9
II	米の価格情報	
	業者間取引の状況	15
	① 日本コメ市場 (随時取引の結果)	
	② 日本コメ市場・クリスタルライス (取引会の結果)	
	③ (株) 加工用米取引センターの取引結果	
	④ 米の現物市場の状況	
III	主食用米以外 (輸出を含む)	
(1)	加工用米及び新規需要米の取組状況等	18
	① 加工用米の生産量	
	② 新規需要米の用途別認定状況	
	③ 加工用米・新規需要米等の取組状況 (平成28年産、都道府県別)	
(2)	飼料用米のマッチングの取組状況、配合飼料メーカーへの飼料用の供給等	20
(3)	政府備蓄米の運営 備蓄米の買入入札の結果 (落札実績) (平成23～29年産)	21
(4)	商業用の米の輸出量及び金額の推移	22
(5)	2016年の主な増加要因 (輸出業者等からのヒアリング結果による)	23
(6)	米菓の輸出量及び金額の推移	24
(7)	日本酒 (清酒) の輸出量及び金額の推移	25
IV	消費動向	
(1)	米の消費動向 (米穀機構による調査)	26
(2)	小売価格の推移 (POSデータ、主な銘柄)	29
V	その他	
(1)	米取引関係者の判断 (米穀機構による調査、平成29年10月分)	30
(2)	平成28年産水陸稲の収穫量	35
(3)	水稻作付面積及び収穫量等の年次別推移 (全国)	38
(4)	水稻玄米のふり目幅別重量分布状況、 10a 当たり収量及び収穫量 (子実用) の年次別推移	38
(5)	麦・大豆の需要情報	40
	① 30年産麦の産地別銘柄別入札結果	
	② 28年産大豆の産地別銘柄別入札結果	
(6)	野菜等の需給情報	46
(7)	米の安定取引研究会報告書の概要	49

米に関するマンスリーレポート (本編・資料編) は、農林水産省のホームページからご覧いただけます。

(URL) <http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

大規模生産法人、農協等の皆様向けパンフレット

出展無料
大規模生産法人、農協等の皆様へ

業務用途への安定取引に向けた

米マッチングフェア 2017

産地
大規模生産法人、農協等

実需者
中食・外食事業者等

【開催時期】 平成29年9月～平成30年2月

【開催場所】 全国10か所（11回開催）

札幌、仙台、さいたま、東京（2回）、金沢、名古屋、京都、大阪、岡山、熊本

家庭内での米の消費が減る一方で、中食・外食等における米の需要は伸びており、このような業務用途の米は、今後も堅調な需要が見込まれます。

平成30年度米から行取による生産調整目標の配分がなくなる中で、今後一層、米産地の法人や農協等がユーザーである中食・外食事業者等と結びつき、当該事業者のニーズに応じた生産を行い、複数年契約や増産前契約を締結するなど安定した取引につなげていくことが重要です。

このような取引の拡大に向けて、業務用途への安定取引を取り組みたい米産地と中食・外食事業者とのマッチングを行う「米マッチングフェア2017」を全国各地で開催します。

皆様、ぜひこのマッチングイベントに参加し、安定した米の販路を開拓しませんか？

主催・株式会社 グレイン・エス・ビー
共催・株式会社 グレイン・エス・ビー
後援・農林水産省、農林中央金庫、農林中央信用協会のうち、農林中央信用協会の東京取引部（米取引部）の力で、米産地と実需者とのマッチングを実現します。

お問い合わせ先
株式会社 グレイン・エス・ビー
〒113-0034 東京都文京区湯島2-12-5 湯島ビル3F
Tel: 03-3816-0672 Fax: 03-3816-0706
E-mail: kome-matching@esb.co.jp

米マッチングフェア2017 産地向け募集説明会 のご案内

【開催スケジュール】 受付 13:00 開催 13:30～16:00

札幌会場 平成29年6月23日(金)	(北海道農政事務所 大会議室) 北海道札幌市中央区南2条西6丁目22 エムズビル2階201F
仙台会場 平成29年6月29日(木)	(東北福祉大学 合同庁舎講堂) 宮城県仙台市青葉区本町3-3-1 合同庁舎4棟8F
さいたま会場 平成29年6月20日(火)	(国庫建設局 共用小売倉庫5C) 埼玉県さいたま市中央区新栄2-1-1 さいたま新合同庁舎2号館5F
東京会場 平成29年6月27日(火)	(TKP 神田ビジネスセンター ANNEX ガール8E) 東京都千代田区神田錦町1-1 住友信託ビル8F
金沢会場 平成29年7月20日(木)	(TKP 金沢ビジネスセンター カンファレンスルーム9A) 石川県金沢市上通町1-35 アパルメントビル9F
名古屋会場 平成29年7月14日(金)	(豊田通商 第1会議室) 愛知県名古屋市中区三の丸1-2-2 豊田通商ビル1F
京都会場 平成29年7月12日(水)	(TKP 京都市東山区九条カンファレンスセンター カンファレンスルーム2B) 京都府京都市下京区九条三条通東入町四丁目7番 コーポレート1F
大阪会場 平成29年7月11日(火)	(TKP 新大阪カンファレンスセンター カンファレンスルーム6A) 大阪府大阪市淀川区宮原4丁目1-4 KOX新大阪ビル2F
岡山会場 平成29年7月24日(月)	(中国四国農政局 会議室A・B) 岡山県岡山市北区下石町1-4-1 中国四国ビル10F
熊本会場 平成29年7月5日(水)	(TKP ガーデンシティ熊本 本館10A) 熊本県熊本市中央区下通1-3-18 ガーデンシティ熊本3F

産地向けの募集説明会に参加希望される方へ

募集説明会は、平成29年6月より開会会とセミナーの事前集いに、産地（大規模生産法人、農協等）の代表者を対象に開催いたします。

当日は、生産者より8月からの商談を希望するセミナーの参加に併せて説明をはじめ、昨今の業務向け米の動向や参加される方に有益なPR活動などもお伝えする予定です。

参加希望の方は、募集説明会の開催と希望の米産地を、参加希望開会日の3週間前までに事務局の申し込み書でアタックまたはメールにてお申し込みください。

なお、募集説明会に参加された方を優先的に、展示場出展者として登録しますので、ご参加のほどよろしくお願い申し上げます。

※この募集説明会は、各産地の農産物プロダクトの会場でご参加いただきます。
但し、会場によりお申し込みの必要はありません。

展示場出展に参加希望される方へ

東京・大阪会場、地方会場の「展示場出展セミナー」を各ページのスケジュールで開会、行います。
出展希望の生産者の方は、各回の参加申込と目標をご確認ください。

※産地と実需者による事前契約、複数年契約の締結、長期の取引を目的とする展示場出展です。

※出展スペース：展示テーブル（180×60cm）を予定

※小売代は、無料です。ただし、そのほかの展示費、会場までの交通・宿泊費等は各自で負担してください。

※展示場出展は、出展登録が完了した上で、出展登録の場、登録費を支払いいたします。

※本会事務局の都合は、変更となります。また、会場によりお申し込みの必要はありません。

展示商談会・セミナーのご案内

出展無料
大規模生産法人、
農協等の
皆様へ

展示商談会・セミナー（東京・大阪開催） 各2日間

【開催スケジュール】

東京会場（TRC東京流通センター）
大阪会場（マイドームおおさか）
平成29年10月24日（火）・25日（水）
10:00～16:00 出展数35小間（予定）
平成29年12月12日（火）・13日（水）
10:00～16:00 出展数35小間（予定）



●セミナー1部11:00～12:00 2部14:00～15:00
安定取引の成り立ち、米穀取引の仕組み、米と食料、
農産物の流通と米の流通を予定

●展示商談会の内容
●出展者コーナー
●相談コーナー

展示商談会・セミナー+現地交流会（地方開催） 各2日間

18日 各展示商談会 10:00～16:00 セミナー1部11:00～12:00 2部14:00～15:00

●展示商談会の内容
●出展者コーナー
●相談コーナー

●セミナー
安定取引の成り立ち、米穀取引の仕組み、米と食料、
農産物の流通と米の流通を予定

28日 現地交流会

●現地交流会
開場、ライスセンター等を視察し、産地の生産者との意見交換を行う



【開催スケジュール】

札幌会場（札幌コンベンションセンター）
平成29年11月29日（水）・30日（木）
名古屋会場（吹上ホール）
平成29年9月29日（金）・30日（土）
仙台会場（サンフェスタ）
平成29年11月22日（水）・23日（木）
京都会場（みやこメッセ）
平成29年9月20日（水）・21日（木）
岡山会場（コンベックス岡山）
平成29年10月31日（火）・11月1日（水）
さいたま会場（大宮ソニックシティ）
平成29年9月6日（水）・7日（木）
金沢会場（金沢流通会館）
平成29年12月7日（木）・8日（金）
熊本会場（グランメッセ熊本）
平成29年10月3日（火）・10月4日（水）



産地向け募集説明会 の参加申込書

- 申し込み方法：①下記開催日の場所にご記入ください。
②本用紙に参加情報をご記入のうえ、FAXまたはメールでお申し込みください。
○申し込み締切：参加希望会期前の1週間前までにお申し込みください。

【注意事項】

※事務局からお申し込みいただいたままの通信手段（FAXまたはメール）にて、後日受付完了のご連絡を差し上げます。
メールでお申し込みいただく場合、参加者名、ご連絡先など下記の情報をお送りください。
※席は多く用意しておりますが、定数に達した場合は受付終了とさせていただきます。あらかじめご了承ください。
※参加費は無料です。但し会場までの交通費は自己負担となりますので、あらかじめご了承ください。
※ご来場は、公共交通機関をご利用ください。 ※開催当日は、各料金をご持参ください。

○開催場所チェック欄

☐ 札幌会場 ☐ 仙台会場 ☐ さいたま会場 ☐ 東京会場
6月23日（金） 6月29日（木） 6月20日（火） 6月27日（火）
☐ 金沢会場 ☐ 名古屋会場 ☐ 京都会場 ☐ 大阪会場
7月20日（木） 7月14日（金） 7月12日（水） 7月11日（火）
☐ 岡山会場 ☐ 熊本会場
7月24日（月） 7月5日（水）

※一時的に会場が変更される場合があります。
あらかじめご了承ください。

○参加者申し込み記入欄

会社・団体名	フリガナ		
住所	〒	-	
電話番号	()	()	FAX番号 () ()
参加者	名	姓	名
			メールアドレス

※ご記入いただいた申し込み情報は、マツチングフェア事務局の公開、各産地の関係機関に提供いたします。

【お問い合わせ】
株式会社 グレイブ・エス・ピー
〒113-0034 東京都文京区湯島2-12-5 湯島ビル3F
Tel: 03-3816-0672 Fax: 03-3816-0708
●メールで申し込みには kome-matching@grainap.co.jp

※マツチングフェア2017 開催中 <https://kome-matching.com>
(以下は必ずお読み)

FAXにてお申し込みください

送信先FAX
03-3816-0708

中食・外食事業者等の皆様向けパンフレット

業務用途への安定取引に向けた

米マッチングフェア2017

産地
大規模生産法人、農協等

実需者
中食・外食事業者等

来場無料
中食・外食事業者等の皆様へ

【開催時期】

平成29年9月～平成30年2月

【開催場所】 全国10か所（11回開催）

札幌、仙台、さいたま、東京（2回）、金沢、名古屋、京都、大阪、岡山、熊本

家庭内での米の消費が減る一方で、中食・外食等における米の需要は伸びており、このような業務用途の米は、今後も堅固な需要が見込まれます。

平成30年度産米から行政による生産数量目標の配分がなくなる中で、今後一層、米産地の法人や農協等がユーザーである中食・外食事業者等と結びつき、当該事業者のニーズに応じた生産を行い、複数年契約や播種前契約を締結するなど安定した取引につなげていくことが重要です。

このような取引の拡大に向けて、業務用途への安定取引に取り組みたい米産地と中食・外食事業者等とのマッチングを行う「米マッチングフェア2017」を全国各地で開催します。

皆様、ぜひこのマッチングイベントに参加し、安定した米の供給先を開拓しませんか？

※本イベントは、農林水産省の「食料・農業・農村政策調査会」が主催する「食料・農業・農村政策調査会」の事業の一環として開催されています。詳しくは、農林水産省のウェブサイトをご覧ください。

お問い合わせ先
株式会社 グレイ・エス・ピー
〒113-0054 東京都文京区湯島2-19-5 湯島ビル3F
Tel. 03-3416-0872 Fax 03-3416-0708
E-mail: kono.matching@gray.co.jp

米マッチングフェア2017

展示商談会・セミナーのご案内

展示商談会・セミナー（東京・大阪） 各2日間

【開催スケジュール】

東京会場 TRC東京流通センター（東京都大田区平和島6-1-1）

平成29年10月24日（火）・25日（水）

東京会場 TRC東京流通センター（東京都大田区平和島6-1-1）

平成30年2月6日（火）・7日（水）

大阪会場 マイドームおおさか（大阪府大阪市中央区本町橋2-5）

平成29年12月12日（火）・13日（水）

各地 展示商談会 10:00～16:00（売り手約35ブース/日）

- 展示商談会の内容
- 産地・実需者の成功事例、業務用途の米の需要動向、食料政策等
 - 出展紹介コーナー（出展者に自社の米産地、食料政策等）

セミナー 1部 11:00～12:00 2部 14:00～15:00（各100名）

- セミナー
- 産地と実需者による播種前契約、複数年契約の締結等、長期的な取引を目的に開催する展示商談会です。本主題をテーマとした中食・外食事業者の米産地を結びつけます。
 - 本主題をテーマとした中食・外食事業者の米産地を結びつけます。



展示商談会



展示商談会

展示商談会に参加される方へ

本主題と実需者による播種前契約、複数年契約の締結等、長期的な取引を目的に開催する展示商談会です。本主題をテーマとした中食・外食事業者の米産地を結びつけます。

飼料用米を活用した畜産物のブランド力強化を進めるため、飼料用米を生産する農家と連携しながら、従来の畜産物より付加価値を向上させて飼料用米活用畜産物を販売している畜産事業者を表彰する「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」が開催されます。

飼料用米活用畜産物ブランド 日本一コンテストを開催!!

田んぼ発



お米で育った畜産物

※ロゴマークを全国に普及する取組を行っています!!

募集中! 平成29年8月~11月末

飼料用米を活用した畜産物のブランド化による販売力向上等の取組を実践している畜産事業者を表彰し、広く紹介するため「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」を開催します。

●応募について (詳しくは応募用紙を参照下さい)

- ・飼料用米を活用した畜産物をブランド化し販売している畜産事業者
- ・飼料用米の給餌割合が一定以上であること 等

※ 応募様式等詳細は以下HPでもご覧いただけます。

●開催スケジュール

- ・ 応募期間 平成29年8月~11月末日
- ・ 審査委員会 平成30年1月~2月
- ・ 表彰式 平成30年3月上旬(東京都内)

●褒賞

- ・ 農林水産大臣賞 ・ 政策統括官賞
- ・ 全国農業協同組合中央会 会長賞
- ・ 公益社団法人中央畜産会 会長賞



●応募先及びお問い合わせ先

主催者：一般社団法人日本養豚協会 (担当、山梨・倉本)
住 所：〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-27-15 高栄ビル2階

連絡先：TEL 03 (3370) 5473 FAX 03 (3370) 7937

メール：yamanashi@pig-pins.com (問い合わせ先等)

H P：飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト アドレス

→ <http://okome-sodachi.jp/index.html>